2013 Spring/Summer

ハイ・ベック タイムズ

Best Eco Cleaning

編集 発行 株式会社サンワード
http://www.sunward.co.jp/

次の一手

最近、TVで子供服の汚れのひどいものと洗っても他の衣類に汚れが付かないという洗剤のコマーシャルを目にしました。これは再汚染防止剤というものを配合したもので、市販の一般洗剤には珍しいものなのかもしれません。

洗濯機の変遷もさることながら、洗剤もこの30年で大きく変化して参りました。河川を富栄養化してしまうとの環境問題から、無リン化がなされました。また、溶けやすい様に粉状から液状へ、たんぱく質や脂肪分解酵素が入り、使用量が少なくなり容器のコンパクト化もなされました。さらに、泡切れを良くし、すすぎも1回でよくなり、部屋干しをしても臭わない様に抗菌・消臭効果も改善されました。

31年前、市販の洗剤が売価200円位の時に、ハイベックは2900円もしました。それはハイベックが前に述べた洗剤の変遷を先取りしていたからに他なりません。

ドライマークのおしゃれ着を家庭で洗うという、当時では非常識ともいえる洗剤をつくる為に、またお洗濯をする上でこれから求められるであろう事をも考えて、当時考えられる全ての有効な成分を必要な量全て配合しました。そしてその後、それら成分に改良が加えられる度に、ハイベックも取り入れて改良進化して参りました。

しかし、未だにハイベックの植物系ドライクリーニング溶剤を主成分にし、ドライマーク衣類をつけ置き洗いができる洗剤は見当たりません。これからもお客様の声に耳を傾けながら、改善・改良に終わりはないと信じて、次の一手を考えて参りたいと存じます。

ハイベックで黄ばみ0（ゼロ）お洗濯

毎日洗っているTシャツや肌着やブラウス。洗濯機で廻し洗いしているのに全体が黄ばんでいくのはなぜ？
実は、衣類が黄ばんでいくのには2つの理由があり、普段のお洗濯だけでは防げないのです。

原因1：落としきれなかった汚れ

水溶性　油性　不溶性

衣類には3つの種類の汚れが付着します。
肌着に付着する汚れの82％は皮脂などの油性の汚れで,毎日のお洗濯だけでは完全に落とすことが難しいのです。衣類に残った汚れは空気中の酸素と酸化し、黄ばみの原因となってしまいます。

油性汚れ ＋ 空気中の酸素（酸　化） ＝ 黄ばみ

原因2：衣類に残留する石鹸カス

残留する理由
- 洗剤の使い過ぎ
- すすぎ不足
- 洗剤の溶け残り
- 石鹸と水道水の化学変化

水道水にはカルシウム・マグネシウムが含まれており、水中で界面活性剤と結合して金属石鹸（石けんカス）が発生します。
石鹸カスは洗剤の洗浄力を落とし、更に黄ばみや黒ずみができやすい環境をつくってしまいます。

石鹸カス ＋ 紫　外　線（化学変化） ＝ 黄ばみ 黒ずみ

ハイベックなら!!

業界初!!
『植物系ドライクリーニング溶剤』配合

専門店で使用しているドライ溶剤を配合しています。水溶性・不溶性の汚れはもちろん、黄ばみの原因となる油性の汚れもスッキリ落とします。
しかも！業界初の植物系溶剤で衣類に優しくお気に入りの衣類を清潔に保ちます。

ハイベックなら!!

ドライ溶剤が揮発性なので衣類に残る心配がなく、すすぎも1回でいいので簡単。

ハイベックで清潔な白さをずっと・・・

お気に入りの衣類はもちろん、白さをキープしたい物などは、ちょっと贅沢にハイベックでお洗濯してみてはいかがでしょうか？
ハイベックなら一度変色してしまうと落とし難い、黄ばみや黒ずみを防ぎます。

衣替え3つのポイント

① 汚れを取る

衣類に汚れが残ったまま収納すると虫食いや黄ばみの原因になってしまいます。1度着用した衣類は必ず洗ってから収納しましょう。

虫が好むウール・カシミヤなどは、ネットに入れてやさしく手洗い。

擦れなどによる袖口の黒ずみや、襟元のファンデーションはブラシ掛け!!

② 湿気を取る

カビの発生を防ぐ為、時々風を通しましょう。湿気は下にこもる性質があります。衣類を収納するときは湿気が停滞しないよう、衣類は容量の八分目、またしまう順番を考えて収納しましょう。

上の段	シルクやカシミヤなど デリケートな毛物やおしゃれ着
中の段	ウール・ポリエステル・レーヨンなど 虫や湿気に弱い衣類
下の段	綿や麻など 湿気に強く、洗濯しやすい衣類

③ 防虫剤

防虫剤には色々な種類がありますが、基本的に成分は空気より重いので、衣類の上に適量置きましょう。
※違う成分の物を一緒に使うと、化学反応を起こしてシミや変色の原因になる場合もあります。注意しましょう。

衣替えの心がけ次第で、来シーズンもお気に入りの衣類を楽しめます♪

ハイ・ベックお洗濯の必需品

プロも愛用!馬毛100%ブラシ

気になる汚れはつけ込む前にブラシ掛け!!

✕ やってはいけない事

- 代わりに歯ブラシやタワシでシミ抜き!
- シミ部分をつけ込む時にもみ洗いする。
- 押し洗いや廻し洗いで汚れを落とす。

結果的に…
生地の傷みや衣類の縮み・型崩れの原因になります

だからブラシが必要!!
馬毛ブラシは、毛先部分が自然な丸みを帯びているので当たりが柔らかく生地を傷めずに汚れを落としてくれます。
目立つシミをしっかり落とす事で、もみ洗い・押し洗いをする必要がありません。

お洗濯前のちょっとひと手間で、後のお洗濯が簡単に!!

シミ抜き以外にこんな使い方が・・・

洋服ブラシ
出勤前の身だしなみとして襟・肩部や縫い目に詰まったホコリを繊維に沿って払います。

袖口がひろがったセーター
お洗濯前に、お水に濡らしたブラシで袖口を擦ると乾いた後に、キュッと閉まります。

風合い回復
コートや逆毛のベルベットなどは、生地にアイロンのスチームをしっかりとかけた後に、毛並みに沿ってブラシをかけます。
洗濯の間に乱れた繊維の流れを整えて光沢を出し、繊維に空気を通す事で生地をふっくらさせて風合いを蘇らせます。

再生紙を使用しています。